

物語文の冒頭部におけるタイトルの影響

伊藤尚枝 (恵泉女学園大学)

目 的

物語文のタイトルが、全体的な内容を把握することができない冒頭部において、どのような影響を与えるのかを実験的に検討する。

方 法

1. 実験参加者 女子大学生 39 名 (19-21 歳)
2. 刺激呈示文 表 1 を使用した (矢田, 1935)。
3. 実験計画 1 要因参加者間計画を実行した。呈示するタイトルを操作して、2 条件を設定した。
“父と娘” 条件：登場する主要人物を含む
“雨の日” 条件：呈示文の内容に関係なし
タイトルと一緒に呈示した文 (表 1) は、2 つの条件で同じであった。
4. 手続 参加者を、どちらか一方の条件に割り振ったあと、タイトル付きの呈示文を渡して黙読してもらった。読み終えたら、「タイトルが文章の内容に合っていた (+4) - 合っていない (-4)」を 9 件法の一対比較法で評定してもらった。次に、表 3 のアンケートに答えてもらった。一対比較法 (9 件法) で評定してもらった。

表 1 呈示文 (矢田津世子, 1935)
(仮名遣いなど表現の一部を変更した)

居間の書棚へ置き忘れてきたという父の眼鏡拭きを取りに紀久子が廊下を小走り出すと電話のベルがけたたましく鳴り、受話機を手にすると麻布 (あざぶ) の姉の声で、屋前にこちらへ来るといのであった。お父様が今お出かけのところだから、と早々に電話を切り、眼鏡拭きを持って玄関へ行くとき、沓脱ぎ (くつめぎ) の上へ向うむきにステッキを突いて立っていた父は履物が何かのことで女中の福に小言を云うていたが、紀久子の来た気配に手だけをうしろへのべて、「何をぐずぐずしとる。早くせんか」と呟鳴 (とな) った。いつものように自動車の来ている門のところまで福と二人で見送ると、扉を開けて待っていた運転手へ父は会釈のつもりか、ちょっと頷く (うなづく) ようにして乗った。そして紀久子が、「行ってらっしゃいまし」と声をかけると、父はそれへ頷きもせずステッキの握り片肘をのせて心もち前屈み (まえかがみ) に向う側の窓へ顔をむけたなりで行ってしまった。

結 果

「タイトルが文章の内容に合っている - 合っていない」程度の評定値に関して、2 条件で t 検定を行うと有意な差が認められた (表 2)。

アンケートの評定結果で、一対比較のペア項目のうち、正評価値にプラスの値 (+1~+4) を当て、負評価値にマイナスの値 (-1~-4) を割り当てた。因子分析で、3 つの因子を抽出できた (表 3)。

表 2 タイトルと内容の合致の平均値と標準偏差
(カッコ内の数値は標準偏差) (** $p < .01$)

雨の日条件 $n = 21$	父と娘条件 $n = 18$	t 値	自由度
1.51 (1.65)	-1.10 (1.64)	4.95**	37

表 3 因子分析の結果
(最尤法, プロマックス法, $N = 39$)

	I	II	III
因子 1 : 記述の躍動性 ($\alpha = .82$)			
登場人物たちが 親しみやすい - 親しみにくい	.83	-.04	.07
登場人物の意図は その人に特有 - 誰にでも共通する	.68	.12	-.04
使われている表現が かたくな - 生き生きしている	.67	-.07	.12
話の進め方が 明るい - 暗い	.63	.18	-.04
因子 2 : 出来事に対する親和性 ($\alpha = .74$)			
何のトラブルもなく 理解しにくい状況 - 理解しやすい状況	.01	.88	-.07
発生していたトラブルは 単純である - 複雑である	.01	.82	.00
登場人物の関係が バラバラである - 一つぱりしている	-.03	.51	.30
登場人物が何をしようとしているか 理解しやすい - にくい	.22	.46	-.06
因子 3 : 展開の類同性 ($\alpha = .64$)			
続いて展開する出来事が 予測しやすい - 予測しにくい	-.06	.07	.95
話の背景が わかりやすい - わかりにくい	.17	.06	.53
話の展開が だんだんしている - きびきびしている	.07	-.25	.46
因子相関行列			
	因子 I	.43	.37
	因子 II		.33
	因子 III		

表 4 下位得点の平均値と標準偏差
(カッコ内の数値は標準偏差) (* $p < .05$)

	雨の日群 $n = 21$	父と娘群 $n = 18$	t 値	自由度
記述の躍動性	-0.41 (1.03)	-0.22 (1.06)	-0.55	37
出来事に対する親和性	-0.74 (1.47)	1.20 (1.78)	3.74*	37
展開の類同性	-1.42 (1.18)	0.28 (0.92)	4.95*	37

考 察

タイトルが内容に合わない父と娘条件のほうが、トラブル発生を理解して (因子 2)、展開を積極的に予測した (因子 3)。タイトルと、冒頭部の内容の不一致感が読解を促進する要因になるのだろう。

引用文献

矢田津世子 (1935). 父 青空文庫
http://www.aozora.gr.jp/cards/000317/files/47442_32488.html (2013 年 3 月 26 日)